

## 8 言語通級指導教室 ことばの保育室・ことばの教室の役割

### 設置校園

- ・三木市立幼稚園（ことばの保育室）  
※市内在住の就学前の5歳児が対象
- ・三木市立小学校（ことばの教室）  
※市内小学校の通常学級に在籍する児童が対象



### 対象幼児・児童

- ・正しい発音ができない音がある。発音に誤りがある。  
例：らっぱ→ダっぱ、さんぽ→シャンぽ、あか→あタ
- ・話をしている時に、音がつまったり、同じ音を繰り返したりする。（吃音）  
例：・・・おかあさん、おおおかあさん、お～～～かあさん
- ・コミュニケーションがとりにくい。同年齢の子どもよりことばが少ないようだ。  
例：友だちとうまく遊べない。話し方が幼い気がする。
- ・舌や唇の動きが気になる。声が鼻にかかる。
- ・文字を読むのが難しい。本読みに自信が持てない。

### 通級指導教室とは

- ・学校園の教育課程に振り替えたり、加えたりして行う特別な指導（保育）です。
- ・教科の学習に影響しないように、小学校では「図書」や「書写」等の時間に指導をしています。
- ・指導時間は、週1～2回（1回につき1～2単位）です。
- ・一人一人のことばの状態に合わせて指導するので、1対1の個別指導が中心です。
- ・ことばの課題が、改善あるいは軽減されると、年度の途中でも指導を終了します。また、場合によっては、年度途中から開始することもあります。
- ・安全に通級できるようにすることと、どのような学習をしているかを知ってもらうために、保護者の送迎や付き添いをお願いしています。

### 指導方法と内容（具体例）

- ・子どもの興味・関心や発達課題に応じて作成した指導計画に基づいて指導します。
- ・「聞く力」「話す力」「理解する力」「判断する力」を伸ばす。
  - ①聞き分け（正しい発音と誤りのある発音の聞き分け）
  - ②舌の使い方の練習「舌の体操」（平舌の安定）
  - ③発音練習（正しい構音の仕方での練習）
  - ④音読練習・会話
  - ⑤コミュニケーション活動（気持ちの表現ができるように働きかける）
  - ⑥吃音について知り、吃音にとらわれず表現できる自信が持てるように指導する。
  - ⑦ことばを広げる学習や様々な感覚を育てる学習をする。

## 学級担任・保護者との連携

連絡帳を作成して、毎時間学習したことを在籍学級担任と保護者に知らせています。そして学級担任には園や学校での様子を、保護者には家庭での様子を連絡帳に書いていただき、子どもの様子を多面的に捉えています。

「ことばの教室」では、担当者と在籍学級担任とで5月に担任者会、10月に担任連絡会を開き、子どもの状態や配慮してほしいことなどについて話し合います。保護者とは、通級指導の学習後に毎回子どもの様子や学習の状況について話し合います。また、必要に応じて個別に時間をとって面談をすることもあります。

## 担当教員の思い・願い

子ども一人一人の課題と発達全体を捉えて指導にあたることを基本としています。子どもが自分のもてる力を発揮し、「おはなしいすき」な子どもになるように支えていきたいと考えています。

## こんなことをしています・・・

Aさんは幼稚園の頃から、話すときに言葉がつかまったり、同じ音を繰り返したりしていました。1年生の時には、急ぐ時につまるのは普通のことだと思っていたし、お家の方もAさんにそう話していました。ところが2年生になりAさんの言葉がつかまった時に、友だちから「病気じゃないの?」と言われたことをきっかけに、自分の話し方がとても気になるようになりました。お母さんが担任の先生に相談し、ことばの教室を紹介されて教育相談に来られ、通級指導をすることになりました。吃音の指導は吃音をなくすことではありません。自己肯定感を高め「吃音があっても自分は自分だ。」と思えるようになること、たとえもっても「どもるのは悪くない。言いたいことは最後まで言うほうがいい。」という考えが持てるようになることを目指しています。そのために次のようなことをしています。

- ① 本やプリントなどで吃音について知ったり、考えたりする。
- ② 自分の得意なことや好きなこと、リラックスできる遊びをしたり、話をしたりする。
- ③ スピーチや音楽、絵などで表現する力を身につける。
- ④ 担任の先生、友だち、お家の方などたくさんの方からいいところを見つけてもらったり自分で気づいたりして、自分を好きになる。
- ⑤ 友だちの話したことやしたことについて振り返ったり気持ちを考えたりして、友だちについて考える。
- ⑥ 日頃自分の困っていることや、学級担任の先生や友だちがこうしてくれたらという希望など、吃音について話をする。
- ⑦ ことばの教室・保育室担当者が、担任の先生や保護者に、吃音についてのアドバイスをしたり相談にのったりする。



「どもってもいいんだよ」等の本を使って吃音について学んだり、得意な卓球を一緒にしたりするうちに次第に心を開いてくれたAさんは、どもることを友だちに指摘されるといやなことや、かけ算に言いにくい段があることなどを話してくれるようになりました。一つ一つ困っていることを解決するために一緒に考えていくことと、初めての友だちにも優しくできたり、仲直りを自分から言い出したりするAさんのいいところ見つけを同時にすすめていくうちに、Aさんの笑顔が増えてきました。

3年生になった時、新しい担任の先生に「どもることがあるけれど気にしないでください。」と話したり、自己紹介カードの「知ってほしいこと」欄に自分から「どもること」と書いたりできるようになったAさんは、自分の気持ちを臆せず話せるようになってきたので、通級による指導を終了しました。



口の体操



楽しみながら



目標をはっきりさせて

☆☆ 子どもたちは、大きく変化して退級します ☆☆

- ♪自分に自信を持った子
  - ♪学習に対する意欲を持った子
  - ♪本読みが好きになった子
  - ♪人と関わる積極性が出てきた子
  - ♪目を見て話を聞くようになった子
- 本当にうれしい変化です。



- \*医療機関や関係機関等とも連携を図り、必要な支援や指導を行っています。
- 通級児童在籍学級の担任の協力は、子どもと保護者にとって大きな力になっています。
- \*子どものことばや学習に関する事で気になることがありましたらお電話ください。
- ことばの保育室…三木市教育委員会 教育・保育課 ☎82-2000 (代表)
- ことばの教室 …三木市教育委員会 学校教育課 ☎82-2000 (代表)